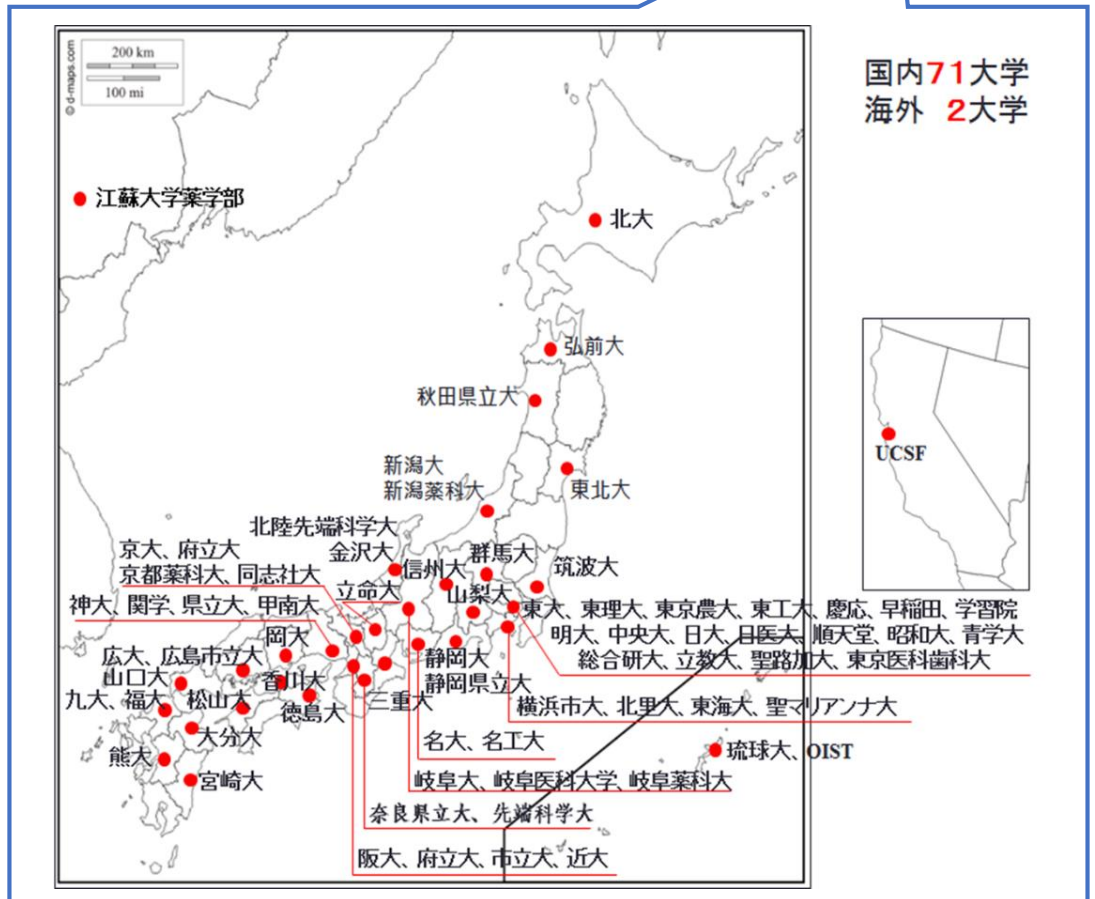
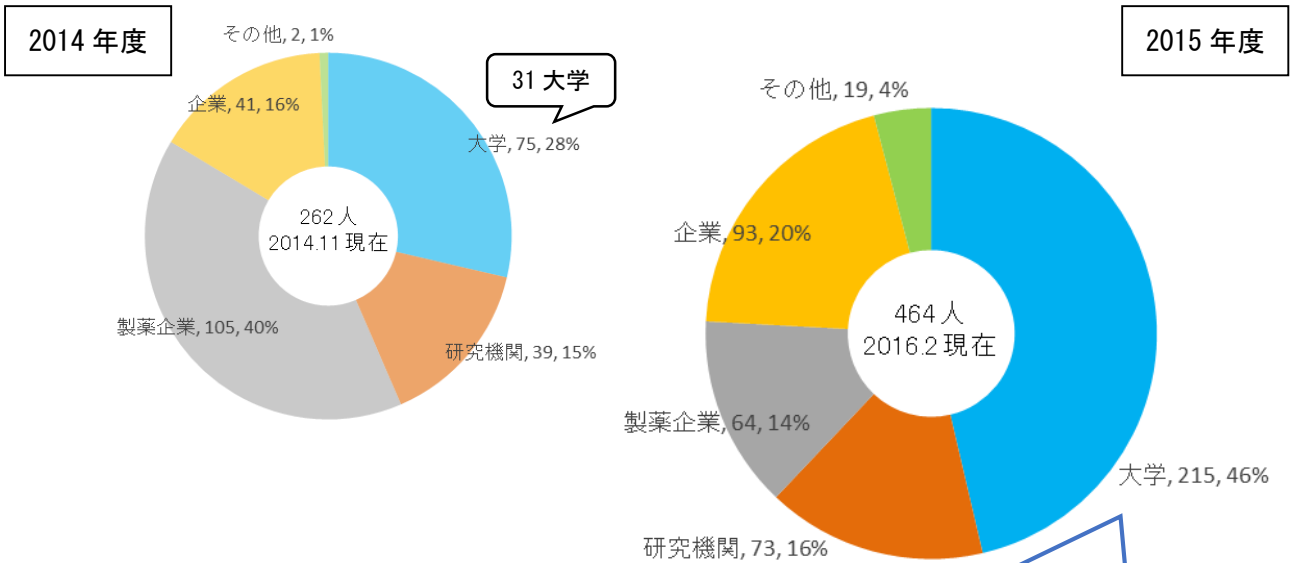


受講登録者状況

2014年度は262人（2014.11現在）であった登録者は2015年度には海外からも登録があり464人（2016.2現在）に増加しました。2014年度、2015年度の登録状況の変化を見ると大学の登録者数は約3倍にまで増え、さらに大学数でみると2014年度:31校から2015年度73校（海外2校を含む）と2倍以上に増えたことから教育機関からの注目の高さのうかがえます。企業の登録者はほぼ横ばいでした。



受講生アンケート

【調査概要】

1. 対 象 「計算生命科学の基礎Ⅱ」の受講登録者
2. 標 本 数 458 (2016年1月14日現在全受講登録者)
3. 調査方法 受講登録者全員へメール送信
4. 調査機関 2016年2月3日(水)(最終講義日)～2016年2月13日(金)
5. 回 収 数 91
6. 回 収 率 約65%

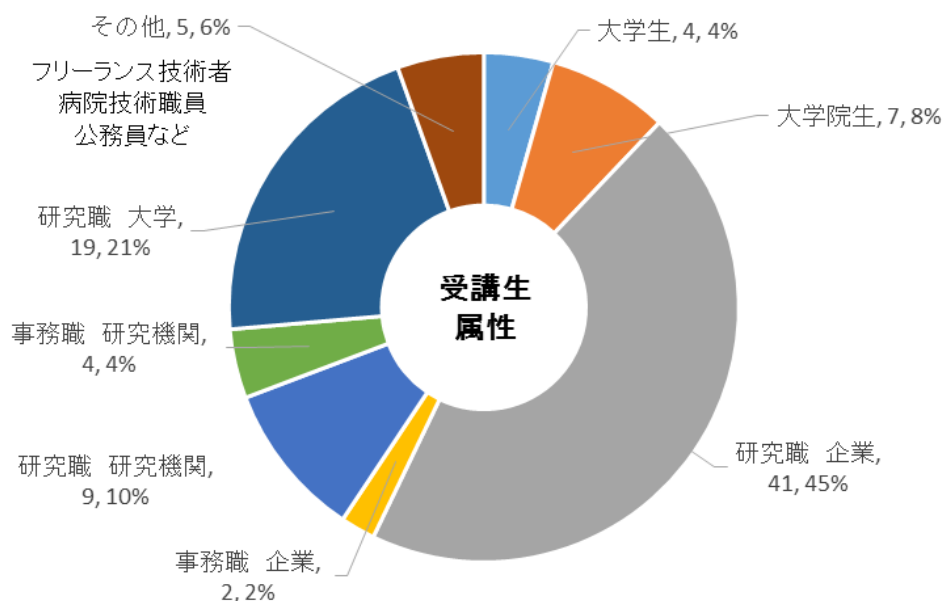
(全講義受講者総数は2,084人で、1講義あたりの平均受講者数は約140人。
1講義あたりの受講者が回答したと想定して算出した。)

【アンケート結果】

アンケート結果の内容を抜粋して掲載しました。

◆ あなたについて教えてください。(1つ選択)

アンケートの回答者の約半数が企業の研究者による回答でした。



◆ 受講の目的

【研究職・企業、研究機関、大学】

- ・ 計算科学を開発に取り入れるための基礎知識習得と情報収集
- ・ 新しい解析手法の探索・調査のため
- ・ 先端技術の動向を知るため

- ・研究である程度実験結果の蓄積ができたので計算科学的アプローチでさらに研究を進めるため

【大学院生、大学生】

- ・就職先で使うため
- ・専門分野の講義を受ける機会が少ないため

◆ よかった講義の理由

【第1編 ゲノムから見る生命科学】

- ・臨床データの個人情報の取り扱いについて参考になった。ヒントを得ることができた。
- ・計算科学的解析のための指針ができた。
- ・ネットワーク解析の基礎的な部分について説明があり、わかり易い内容でした。

【第2編 タンパク質から見る生命科学】

- ・タンパク質のQMの概要がわかった
- ・量子計算の基本を網羅されていて非常に勉強になったから。
- ・創薬の現場で遭遇する問題についての質問にも丁寧にご回答頂けたため。

【第3編 医療・創薬における計算生命科学】

- ・最近の分子動力学と、量子化学計算を知ることができた
- ・計算生命科学が医療や創薬にどのように活用されるのかをイメージを得ることができた。
- ・大脳皮質のシミュレーションは初めて聞いたため技術の進展に衝撃を受けた

【その他】

- ・俯瞰的に理解できた
- ・いずれも資料が充実して内容も最先端の研究者の意欲が感じられるものであった。

◆ 全体の感想

- ・改めて体系的に学ぶことができあいまいだったり、抜けている知識を再認識できた
- ・非常にレベルの高い講義で新しい知識をたくさん吸収できた
- ・かなり知識が増えました。学生にも受講させたが研究室のセミナーよりもよく理解できているようだった
- ・製薬団体、PMDAの開催研修からは得られない知識が得られた
- ・量子化学計算のいくつかの講義はそれぞれの視点から研究の違いなどを比較して学べた
- ・生命科学を異分野横断的に考察するうえで計算科学の果たす役割はあまりにも大きいと思った
- ・判り易い授業は終了後に満足感があり、他の人と情報交換できた。
- ・講義を録画して受講できれば自由な時間に見ることができると非常に助かります。